

イチイ *Taxus cuspidata* Siebold et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。温帯性の樹木で、自然林の構成樹種である。愛知県では、生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ約 15~20m、直径約 1m になる。樹皮は赤褐色で浅く縦に裂ける。若枝は緑色で無毛、後に淡褐色~灰褐色になる。葉は線形、長さ 5~20mm、幅 1.5~3mm、表面は深緑色、裏面には 2 条の淡緑色の気孔帯があり、先端はとがるが、触れても痛くない。雌雄異株で、花期は 3~4 月、雄花は葉腋に 1 個ずつつき、球形で鱗片に覆われ、長さ 4mm、雌花も葉腋に 1 個ずつつき、長さ 2.5mm である。種子は卵状球形で緑褐色、成熟すれば赤い液果状の仮種皮で囲まれるが、仮種皮の上端は閉じずに開口する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 44821, 1993-6-27)、2 豊根 (芹沢 67256, 1993-9-2)。自生と思われるものは、県東北部の山地にわずかに生育しているだけである。足助などでは、山中に植栽されたものがある。社寺などにはしばしば植栽されている。

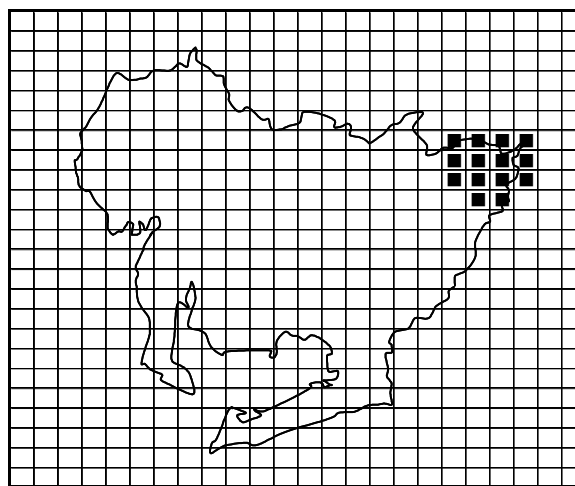
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布するが、自然林は全国的に見てもほとんど残存していない。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いや尾根などに点在する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

大形の樹木だけに、成木の個体数は少ない。極めて上質の材が得られるため、過去には相当伐採されたものと思われる。現在においても、伐採（盗伐を含む）のおそれがある。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。本種の場合は有用樹であるため、他種以上に個別的な保護が必要である。

【特記事項】

イチイの名は、材が上質で高位の人の笏に使われたからである。アララギ、オンコなどとも呼ばれる。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.451, 平木本Ⅰ p.24, 平新版Ⅰ p.43, SOS 旧版 p.44.